

# 囲碁入門講座通信 令和5年 第54号



報告:有楽斎

毎月第二日曜日の午後1時半から午後4時ごろまで、朝日2丁目集会所で「囲碁入門講座」に、それなりに一所懸命取り組んでいるのですが、新型コロナウイルス感染を防ぐために、「三つの密」密閉・密集・密接を避けがたく、まことに口惜しところですが、**現在休局中**です。

(棋士名は碁に因んだ名をニックネームとして表記しています)

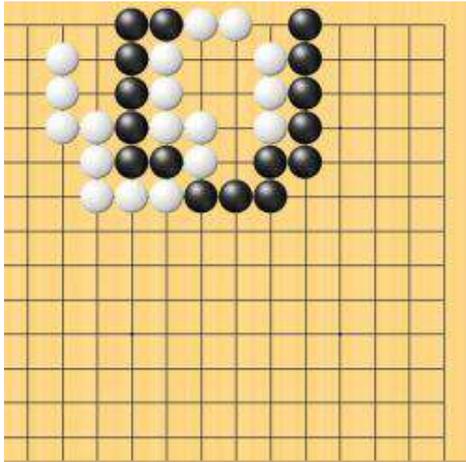
今号でも 直観力とヨミの精度を鍛える詰碁問題をご案内したいと思います。

(監修:太神楽(だいかくら)師匠)

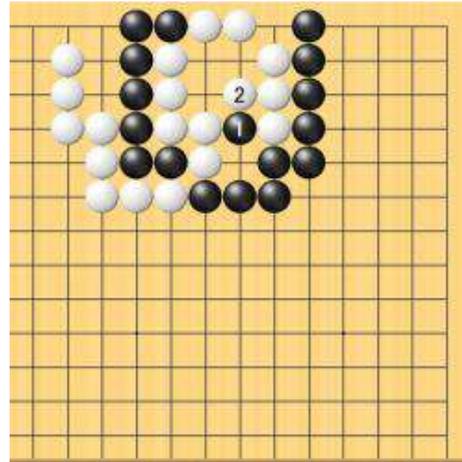
**手筋問題 攻防の手筋と攻め合いの手筋。読み抜く力をつける** 白と黒の石が切り結んでいるとき、その要の石を含む一団を取るか取られるかは、勝敗を決しかねない大きな問題です。ここではそんな中盤の攻防、攻め合いに強くなるための手筋問題を6題ほど用意しました。最初の3問は、切り結んだお互いの石が取るか取られるかの攻防、後半の3問は相手の死活が絡む攻め合いの問題です。

## 手筋問題5 黒番

攻め合い 黒七子を助けてください。

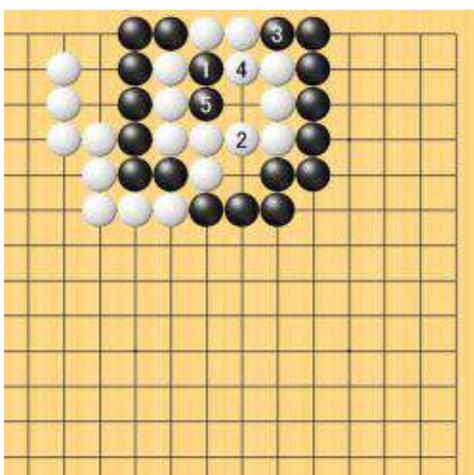


## 手筋問題5 失敗



黒1は白2と受けられて、黒が三目の真ん中に置けば、黒1の石が取られます。辺の黒は三手の余裕しかありませんから、白の手数を縮める方策を見つけなければなりません。

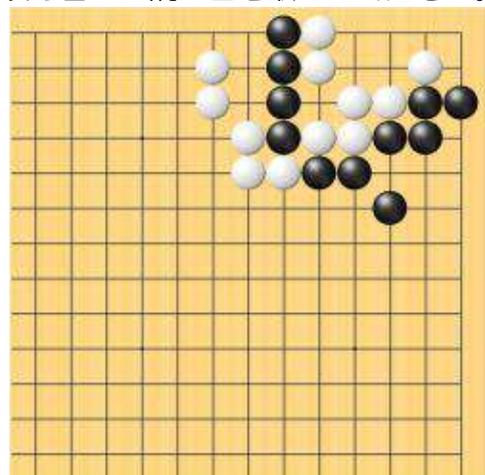
## 手筋問題5 正解



上の失敗例から、黒1が急所と分かります。白2で手数が延びるように見えますが、黒3と外側からアテて黒5まで。なんと、白はあと2手で取られる形になりました。

## 手筋問題6 黒番

攻め合い 隅の白を取ってください。



正解と解説は次号(第55号)でご案内します。お楽しみに